

「絶対反対、廃止せよ」の旗を高く!

裁判員制度はやっぱりいらない! 10・2全国集会

10月2日(金)午後6時半から東京・四谷区民ホールで「裁判員制度はやっぱりいらない! 10・2全国集会」が開かれました。主催は「裁判員制度はいらない!大運動」です。全国から450人が参加し、8月3日東京地裁から始まった裁判員裁判のこの二ヶ月をとらえ返し、徹底分析しました。そして「こんなものは裁判ではない、やっぱり廃止しかない!」と今後の廃止運動への確信を強めました。

呼びかけ人の斎藤貴男さんは「裁判

は真実を追究するところなのに、全く真実が解明されていない。それなのに市民を取り込んで正しいと認めてしまう。とてもズルイしくみだ」と裁判員裁判の一番

の問題点を指摘。さらに、一昨年の「やらせ質問のタウンミーティング」に最高裁からお金が出ていた事実を取り上げ、記事を装った政府の広告で世論が誘導されている現実に警鐘を乱打しました。

藤田正人弁護士は各地で行われた裁判員裁判を分析しレポート。その実態は「市民参加」という名の刑事裁判ショー、そして、簡易・迅速・重罰の「お白州(しらす)」だった、と暴きました。

弁護士会、町内会、市民運動、労働運動と各界からの代表を交えたパネルディスカッションでは、この裁判員制度の違憲性、国民総動員性がさらに明らかになりました。台東区の年輩の町内会長さんは「人の心を踏みにじっても



いいということはない。完璧な人間はない、裁判に参加することはできない。下町の99%は反対だ」と発言、圧倒的な民衆が反対していることが実感されました。さらに、各地からの裁判員裁判抗議行動の報告も。福岡・香川・岡山・大阪・三重・神奈川・埼玉・千葉と各地裁前でのピラ撒きアピールやデモの元気な報告が次々と続きました。

最後に高山俊吉弁護士が「絶対反対・廃止せよの旗を高く掲げよう。学習会に参加した人が運動を広げる担い手になろう」「その武器となる全国情報誌を作る。10月~1月さらに大きく廃止を! の声を上げよう」と檄を發しました。(事務局・先崎)

いいということはない。完璧な人間はない、裁判に参加することはできない。下町の99%は反対だ」と発言、圧倒的な民衆が反対していることが実感されました。さらに、各地からの裁判員裁判抗議行動の報告も。福岡・香川・岡山・大阪・三重・神奈川・埼玉・千葉と各地裁前でのピラ撒きアピールやデモの元気な報告が次々と続きました。

判に専念(弁護士)

⑦情状弁護が困難になった。「被害者の落ち度を言っても身勝手な言い訳と受け入れてもらえない」(弁護士)

⑧弁護人まで基本的立場を検察官と同じくした。最高裁調整の量刑分布図を元にした量刑論と、弁護人求刑。

⑨検察官の主張・求刑を追求するラフな判決。「簡易迅速」審理の当然の結果。「判決は踏み込んだ事実認定をしなかった」(弁護士)。

⑩かいま見える評議の問題。「議論を交わす時間が少なかった」、「短時間の評議で良いのか疑問がある」(裁判員)。

⑪冤罪増加は避けられない。(「大運動」事務局のレポート「はじめた裁判員裁判—その実体」より)



裁判員制度はいらない!大運動は10月6日に記者会見を開き、始まった裁判員裁判の実態について、こんなものは裁判ではない、市民・国民に治安維持を担わせ、人を裁いて刑務所に送り込むことがいいことであるという権力の思想に染めるものと弾劾した。

被告人の権利が踏みにじられた

は大きかった(裁判員)

⑥弁護側は、検察側に比べ、人・金・物で圧倒的な不利な状況だった。『竹槍と戦車』。当番弁護士が、ほかの仕事犠牲にして、現場にも走り、近所の聞き込みもやり、資料もわかりやすく自分で作る。検察官は給料をもらって裁

①裁判官・検察官・弁護人だけの「公判前整理」で、審理内容とタイムテーブルが決定、背景事情の立証は切り縮められ、証人・証拠は削減された。「いざ裁判がスタートすると、「軌道修正」がまったく利かない」(弁護士)

②裁判員からは、被告人に対する取調官のような質問(糾問的質問)が連発された。「なぜ警察や救急車を呼ばなかったのか」(裁判員)

③「当事者主義の原則」(検察側と弁護側が対等平等に主張・立証を行い、裁判官が公平な第三者として冷静に判断するというもの)は完全に捨てられ、被告人:裁判官3+裁判員6+検察官+被害者=1:11のまるで「公開リベンジ」のワイドショーだった。

34万人への通知に反撃! 11・14~15全国一斉街宣へ

最高裁は10月7日、来年の裁判員候補者となる人々に向けて、通知などを11月12日に発送する予定だと発表した。候補者は各地の選挙管理委員会が選挙人名簿から無作為に抽出して選ぶ。各裁判所ごとに人数を決めてお

り、来年は34万4900人が選ばれる予定だ。

11月~12月は裁判員裁判の数もずっと増え、被告が無罪を主張しているケースも出てくる。裁判員裁判の破綻した姿が露呈するのはこれからだ。こ

れまでも各地で辞退者・拒否者が続出、10月7日の秋田地裁ではついに「裁判員制度反対」のタスキをかけて選任手続きに臨んだ裁判員候補者が現れた。一人の拒否からみんなの拒否へ、みんなの力で制度を廃止へ追い込もう。

■神奈川 9/29~10/1

9月29日、労働者市民ら延べ50人が横浜地裁前に集まり、朝8時~午後1時30分まで抗議行動。横浜弁護士会からも参加、高山弁護士や武内弁護士、インコらもかけつけてくれた。昼からはデモへ。通行人や傍聴に来た人からもデモに参加する人が出るなど運動の展望を感じた。(篠田)



■福島 9/29~10/2, 10/7~9

9月29日、福島地裁郡山支部前で朝8時からと午後1時からの2回にわたって抗議情宣。呼び出された裁判員候補者のうち出席したのは36人、なんと11人が欠席。出席した候補者も「出来れば来たくなかった」と言っていた。

県内では二回目の福島地裁での裁判員に対し抗議行動。10月7日午前8時から地裁正門前で世話人の清野さんから8人で制度廃止を訴えた。「全国通信」読者も参加、昼休みには近在の職場から労働者もかけつけた。(須田)



■東京 10/6~8

10月6日、東京地裁第二回目の裁判員裁判に「裁判員制度はいらない!大運動」が再度の抗議行動。高山弁護

各県で抗議行動続く!



士、武内弁護士、鈴木弁護士と次々アピール。インコも雨合羽を着て登場した。雨にも関わらずピラの受け取りが良かった。記者会見も行った。(先崎)



■愛知 10/6~9(台風で8日は休み)

10月6日、「裁判員制度はいらない!大運動・東海連絡会」は名古屋地裁前で抗議行動。国民救援会が「冤罪をなくすため、裁判員候補の皆さん、頑張ってください」と訴えていたが、我々は「現代の赤紙・裁判員制度絶対反対!みんなで拒否して廃止に追い込もう!」とアピールした。(石田)



■岐阜 10/6~9

10月6日は、朝8時からJR岐阜駅前前でピラ撒き、9時からは岐阜地裁前で横断幕・プラカード・マイクで「絶対反対!即刻廃止せよ!」と訴えた。新

間にも取り上げられ、夕方のニュースでも映像が流れた。(村瀬)



■岡山 10/6~9

「裁判員制度はいらない!大運動・岡山」は、4日に岡山市中心部で街頭宣伝とデモで廃止をアピール。6日は朝8時から岡山地裁前で裁判員候補者に「拒否しよう」と訴えながらピラを配布した。「人の一生を決めるようなことにどうして素人を強制的に参加させるのか」と言っていく候補者もいた。(清水)



■徳島 10/6~9(台風で8日は休み)

制度の廃止を求め10月6日、徳島地裁前でアピール。出勤する全司法労組員にも、私たちに分断する「現代の赤紙」に反対しようと訴えた。(仙田)

